

第2回行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画検討委員会 傍聴人感想

・面白かった議論（意見）は下記のとおり

1. 中高生は日頃、どこに溜まっているのか。土日はどこにいるのか。塾の周りにいるのか。
2. 若い企業者は喫茶店にいるのか。
3. 中高生が学校、塾以外で集まることができる場所や地域で溜まれる居場所があることが重要で、一旦外に出ても戻ってくる確立が高くなるもの
4. 郷土を支えている人々の活動を学校教育（社会科）の中でも教えてきつつある。
5. 昭和35年の段階で、商店街ではすでに閑古鳥が鳴いているとの記事あった。

・“社会”“地域”を変えるのは「よそ者、若者、ばか者」という視点の共有が重要

・今日の委員会に商工会議所の横田委員、市民公募の富岡委員が欠席したのは大変残念だった。専門家でないこの2名がポイントとなる。

・行政主導で良いことは何ひとつない。地域・住民指導＝行政支援・参加のまちづくりが満足度とクオリティと持続可能なまちづくりの原動力となる。

・①地域（モデル地区）の②様々な人達がどれだけ③当事者として④企画段階から⑤参加できるか、が重要である。

・今、行田が **Action** する上で何が足りないのか（どうしたら、1歩でも半歩でも動き出すのかを議論してください。5回では少なすぎる。

・委員会のラベルとレベルが高すぎる

・人が魅力、人が大事（地域を支えている人、若者、子育て女性）